

## はじめに

未曾有の災害として甚大な被害をもたらし、子どもたちを含む多くの尊い命が失われた平成23年3月11日の東日本大震災から4年が経過しました。今なお、行方がわからない方がおられ、また、仮設住宅などで不自由な生活をされている方もいます。

私たちは、この教訓を忘れることなく、緩むことなく子どもたちの命を守る防災教育を一層推進していかなければなりません。

高知県教育委員会では、防災教育を中心とした安全教育の指針として「高知県安全教育プログラム（震災編）」を平成25年3月に策定し、このプログラムに基づく教材として小学生・中学生用の防災教育副読本「命を守る防災BOOK」等を作成しました。各学校では、これらを活用して、子どもたちに正しい理解に基づく的確な判断力や実践力を育てる防災教育に取り組んでいただいているところです。

特に、文部科学省の委託事業を活用した「実践的防災教育推進事業」の拠点校に指定した学校では、緊急地震速報の活用をはじめ様々な場面を想定した避難訓練や、近隣校・園、地域を巻き込んだ避難訓練を実施するなど、地域の実情に応じた特色ある取組が行われてきました。また、子どもたち一人一人が自ら判断して的確に動けるようになるために、いろいろな状況や場面を想定して、「自分はどうか」を子どもたちが自ら考えることに重点を置いた授業を行うなど、「高知県安全教育プログラム」に基づく多様な指導方法の開発が行われてきました。

平成24年度から26年度までのこのような拠点校30校の取組の成果を防災教育の参考としていただくために、各校で実践された取組の一端を「実践事例集」としてまとめました。

この「実践事例集」を参考として、全ての教職員が、「最大クラスの南海トラフ地震が、いつどこで発生しても、子どもたちを一人も死なせない」という共通の願いのもと、防災教育に取り組んでいただきますようお願いいたします。

平成27年3月

高知県教育長 田村 壮児

# 高知県の防災教育について

「高知県安全教育プログラム」に基づく防災教育  
～南海トラフ地震から命を守りきるために～

高知県教育委員会では、南海トラフ地震に備えて、災害発生時に子どもたちが的確に判断し、行動することができるようになるために、子どもたちに「自分の命を守り切る力」や「地域社会の安全に貢献する心」を身に付けさせることを目的とした教職員用指導資料「高知県安全教育プログラム（震災編）」を平成25年3月に策定し、全教職員に配布しました。

このプログラムには、高知県の子どもたちに、防災教育で身に付けさせたい内容を「助かる人・助ける人になるために（指導10項目）」として発達段階毎に整理し、具体的な授業の展開例も掲載し、プログラムに基づく防災教育に全ての学校で取り組むこととしています。

## ○地震・津波を想定した「避難訓練の徹底」

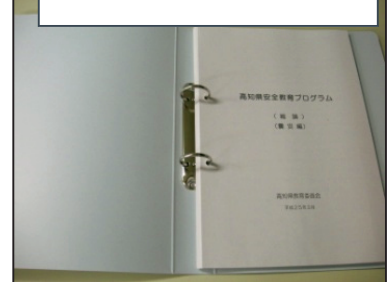
- ・年度当初のできるだけ早い時期に避難訓練を実施すること
- ・時間帯や設定を変更して年間3回以上実施すること

## ○子どもたちが自らの確に判断し行動できるための正しい知識を身に付ける「防災学習の充実」

- ・避難訓練と防災学習を効果的に関連付けた取組の工夫
- ・年間3～6時間（小中学校は5～6時間）程度を年間指導計画に位置付けた防災の授業を実施

## ○家庭や地域、関係機関と連携した取組の実施（保護者とともに考える防災）

高知県安全教育プログラム



## 高知県安全教育プログラム（震災編）の基本的な内容

### 助かる人・助ける人になるために（指導10項目）

指導内容はあくまで基本的な内容です。学校種や地域の特徴（地理的条件、ビル等の有無、人口規模等）に応じてさらに加える内容を検討する必要があります。

#### 事前

#### 備える

### 南海地震を正しく恐れ、ともに立ち向かう！

#### 1 地域に起こる災害を知る

- 「想定を知る」
- ・自分が住む地域に発生する危険（揺れの強さや長さ、30cmの津波到達の時間、最大津波浸水深等の想定）
  - ・過去の南海地震の規模と被害の状況（自分の住む地域が過去に受けた被害等）
- 「助かるために知っておくこと」
- ・津波は膝下くらいの高さでも動けなくなる
  - ・津波は繰り返しの長い時間（6時間以上もある）押し寄せる
  - ・津波は川をさかのぼる（数kmも遡上した例もある）
  - ・揺れが小さくても津波が来ることもある
- 「想定以上のことも起こりうること」
- ・想定や過去の経験にとらわれない

#### 2 必ず助かるための知恵と備え

- 「必ず助かるために」
- ・地域の津波避難場所を知っておく
  - ・登下校中や家からの避難方法（避難場所と経路・危険箇所等）
  - ・「それぞれが逃げる」家族との約束（集合場所も決めておく）
  - ・人が集まる場所では非常口を必ず確認しておく
  - ・海岸や河口付近に行くときは、まず高台への道を確認する
  - ・緊急地震速報等、防災に関する情報について知る
- 「今すぐしておくこと」
- ・夜間の地震発生に備える（枕元に靴や懐中電灯等の必要な物を置く、家具等が転倒・落下しない場所を確保）
  - ・家具等の転倒・落下防止、ガラスの飛散防止等を行う
  - ・最小限の非常持ち出し品を準備する
  - ・家族との連絡方法（災害用伝言ダイヤル等）を確認しておく
  - ・水・食料等を備蓄しておく（最低3日分）

#### 3 みんなで助かるための備え

- 「災害時に助ける人になるために知っておくこと」
- ・地域の防災訓練への参加
  - ・防災倉庫の場所や中身の確認（バール等の資機材の使い方）
  - ・心肺蘇生法（AEDを含む）等の応急手当の技能の習得
  - ・ボランティア活動への参加
  - ・学習したことの情報発信（地域や近隣校園へ）

#### 発生時

#### 命を守る

### 「ぐらっと」きた時！

### 揺れの後は！

#### 4 揺れから自分を守る

- 「ぐらっと揺れたら大事な頭をまず守る」
- ・揺れを感じたら（緊急地震速報を受信したら）頭を守る
  - ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる

#### 5 津波からの迅速な避難

- 「想定にとらわれず避難する」「最善を尽くして行動する」
- 「率先避難を行う」
- 「揺れたら、とにかく急いで高台へ」
- ・自分で判断して一番近くの高い場所へ避難する
  - ・沿岸地域では動けるくらいの揺れになったらすぐ避難を始める
  - ・強い揺れ、長く揺れたらすぐ避難する
  - ・避難したら警報が解除されるまで戻らない

#### 6 いつ、どこにいても自分を守る

- 「一人の時でも必ず助かるために」
- ・指示を待つことなく自分の判断で行動する（「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せる）
  - ・屋外では、ブロック塀や建物の倒壊や落下物等、周囲の状況に特に注意する

#### 7 二次災害への対応

- 「火災から逃げる」「動けるようになったら避難」
- ・大声で知らせる
  - ・身を低くして壁に注意する
  - ・延焼するものがない、十分な広さのある場所へ避難する
- 「土砂災害等への注意」
- ・崖の上や下から離れ危険箇所には近づかない
  - ・前兆が見られたら避難する（避難勧告に注意）
  - ・川の様子（水量が変わる、水が濁る等）や山の様子（山鳴りやひび割れ、小石の落下等）に注意する
  - ・液状化、余震への注意

#### 8 助ける人になるための行動

- 「自分にできる『助ける』行動」
- ・（津波、火災の危険がない場合）互様の下にいる人を助ける手伝い、大人を呼びに行く等の自分にできる行動をする
  - ・可能な限り、初期消火、けが人の搬送、応急手当等を行う

#### 事後

#### 暮らしをとりもどす

### ともに生きぬく！

#### 9 みんなで生き延びるための知恵と技

- 「今、自分にできることを」
- ・あらゆる手段を活用して情報収集・伝達を行う（災害用伝言ダイヤル等の活用）
  - ・避難生活を支える（ボランティア）物資の仕分けや整理、運搬
  - ・避難所の清掃
  - ・情報の収集・伝達に関する活動
  - ・高齢者や障害者などの手伝い
  - ・小さい子の遊び相手
  - ・炊きだしの手伝い

#### 10 地域社会の一員としての心構え

- 「命を守る地域の絆」
- ・集団生活のルールを身に付ける
  - ・積極的に地域とのつながりを持つ
  - ・自分にできる役割を考え実行する
  - ・家屋の片付け等を手伝う

## 教材の活用について

安全教育プログラムに基づく防災学習教材として、平成 25 年度に小学生用と中学生用の防災教育副読本「～南海トラフ地震に備えて～命を守る防災BOOK」を作成し、小学校3年生から6年生までの全児童と中学生全員に配布しています。また、高校生には、平成 26 年度に「～南海トラフ地震に備えて「助かる人・助ける人」になるために～高校生のための防災ハンドブック」を作成し、高校生全員に配布するようにしています。

この副読本やハンドブックは、学校の防災の授業で使用するだけでなく、子どもたちが自分で防災について学ぶ資料として、また、家族と防災について話し合う材料として活用されることを意図して作成しており、防災に関する基本的な知識が得られる内容にしています。

その他、学校での防災教育の質的向上を目指し、様々な資料を作成し、配布しています。

<p>土佐の防災学習プログラム 南海地震に備えよう (平成 18 年 3 月)</p>	<p>防災学習教材 南海地震に備えちよき (平成 24 年 3 月)</p>	<p>小学生用 防災教育副読本 「～南海トラフ地震に備えて～ 命を守る防災BOOK」 (平成 26 年 1 月)</p>	<p>中学生用 防災教育副読本 「～南海トラフ地震に備えて～ 命を守る防災BOOK」 (平成 26 年 1 月)</p>
			

## 防災教育の事業について

### 1 実践的防災教育推進事業 ～防災学習の充実～

各拠点校において、多様な避難訓練（緊急地震速報等の活用・地域の連携等）や防災に関する指導方法の開発・研究等、実践的な防災教育を実施し、その取組を他校へ普及しています。

【拠点校数】平成 24 年度：7 校・平成 25 年度：12 校・平成 26 年度：12 校

※うち 1 校は 26 年度も継続

### 2 防災キャンプ推進事業 ～体験活動の充実～

子どもや保護者・地域の方々が実際に学校で一緒に寝起きし、災害後の避難生活を体験的に学ぶ防災キャンプを実施しています。

【実施地区】平成 24 年度：2 校（高知市立三里小学校地区・土佐市立宇佐小学校地区）

平成 25 年度：4 校（香美市立大柵中学校地区・高知市立布師田小学校地区  
佐川町立黒岩小学校地区・四万十市立後川中学校地区）

平成 26 年度：4 校（室戸市立佐喜浜小学校地区・香南市立夜須中学校地区  
高知市立五台山小学校地区・須崎市立南小中学校地区）

### 3 学校防災アドバイザー派遣事業 ～安全対策の強化～

学校の安全対策の強化を図るため、大学等の防災部門の先生方をアドバイザーとして、学校に派遣し、専門的な見地からの防災学習や避難場所・避難経路の見直し等にアドバイスをしていただく「学校防災アドバイザー派遣事業」を実施しています。

【派遣数】平成 24 年度：48 校・平成 25 年度：77 校・平成 26 年度：63 校

# 目 次

## 【平成24年度高知県防災教育推進事業拠点校の取組】

安芸市立安芸第一小学校	1
南国市立大湊小学校	5
高知市立大津小学校	11
須崎市立須崎小学校	15
四万十市立下田小学校	19
黒潮町立南郷小学校	25
高知県立須崎高等学校	29
高知県防災マップを知っていますか？	35

## 【平成25年度高知県防災教育推進事業拠点校の取組】

香南市立岸本小学校	36
南国市立三和小学校	42
土佐市立宇佐小学校	48
須崎市立南小中学校	54
四万十市立八束小学校・八束中学校	58
土佐清水市立三崎小学校	64
宿毛市立片島中学校	68
黒潮町立佐賀小学校	74
黒潮町立佐賀中学校	78
高知県立城山高等学校	84
土砂災害について	90

## 【平成26年度高知県防災教育推進事業拠点校の取組】

東洋町立甲浦小学校	91
奈半利町立奈半利中学校	97
安田町立安田小学校	101
香美市立大柵小学校	107
南国市立稲生小学校	111
高知市立南海中学校	117
須崎市立新荘小学校	123
佐川町立黒岩小学校	127
土佐清水市立下川口小学校	131
宿毛市立咸陽小学校	135
黒潮町立上川口小学校	139
高知県立須崎工業高等学校	145

## 【参考資料】 防災意識アンケート

防災教育資料・教材 貸出一覧	155
----------------	-----